# 19［詩］『レモン哀歌』

１　そんなにもあなたはレモンを待っていた

２　かなしく白くあかるい死の床で

３　わたしの手からとった一つのレモンを

４　あなたのきれいな歯ががりりとんだ

５　トパァズいろの香気が立つ

６　その数滴の天のものなるレモンの汁は

７　ぱっとあなたの意識を正常にした

８　あなたの青く澄んだがかすかに笑う

９　わたしの手を握るあなたの力の健康さよ

10　あなたのにはあるが

11　こういう命の瀬戸ぎわに

12　はもとの智恵子となり

13　生涯の愛を一瞬にかたむけた

14　それからひと時

15　昔でしたような深呼吸を一つして

16　あなたの機関はそれなり止まった

17　写真の前にした桜の花かげに

18　すずしく光るレモンを今日も置こう

●語注

トパァズ＝宝石の一種。黄玉。

智恵子＝高村智恵子（一八八六〜一九三八）。光太郎夫人。

山巓＝山頂。

問１　この詩の形式を漢字五字で答えよ。3点

〔　　　　　　　　　　〕

問２　１行目「そんなにも」とはどのようなことを指しているのか。その部分を詩中から抜き出し、行番号で答えよ。（ただし、連続する二行とする。）3点

〔　　　　　〕

問３　６行目「天のもの」とは、ここではどのような意味で使われているのか。わかりやすく説明せよ。4点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　12行目と同じことを述べている行は何行目か。行番号で答えよ。3点

〔　　　〕

問５　13行目は具体的には智恵子がどうしたということか。詩中の言葉を用いて一〇字以内で答えよ。4点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　この詩を起承転結に分けるとするとどう分けられるか。ただし、１・２行目を起と考えた場合、転と結はそれぞれ何行目から始まるか。また、そのように考える理由をその内容に即して述べよ。3点＋6点

　転〔　　　〕　結〔　　　〕

理由〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問７　10行目「咽喉に嵐はあるが」のような表現技法を比喩の中でも何というか、漢字で答えよ。また、これはどのようなことを形容したものか、簡潔に説明せよ。3点＋6点

技法〔　　　　　　　　　　〕

形容〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問８　16行目は智恵子の死を述べたところである。それを「あなたは死んだ」とはいわないで、このように表現したのはなぜか。適当でないものを次から二つ選べ。3点×2

ア　肉体は死んだが、精神は死んでないと考えている。

イ　即物的に表現することで、死の悲しみを和らげている。

ウ　智恵子の死を、死として絶対に認めたくない気持ち。

エ　冷静に智恵子の死を見つめている。

オ　もはやどうしようと智恵子は再び生き返ることはない、という深い悲しみがある。

〔　　　〕〔　　　〕

問９　次の鑑賞文の空欄に入る適当なことばを漢字二字で答えよ。3点×3

　「レモン哀歌」の「哀歌」はここでは死者を哀悼する［　　ア　　］の意である。あえて「哀歌」としたのには、智恵子の死を悲しくも美しく歌おうとする作者の意図が読み取れる。「レモン」とは、智恵子への愛の［　　イ　　］であり、そのレモンを通して光太郎は智恵子を追慕している。レモンのさわやかさはそのまま二人の愛のさわやかさである。そこには作者が二人の愛を永遠に美しいものに歌いあげようとする、つまり愛を［　　ウ　　］しようとする思いが読み取れる。

ア〔　　　　　〕　イ〔　　　　　〕　ウ〔　　　　　〕

【解答】

問１　口語自由詩

問２　３・４（行目）

問３　（神のような）不思議な力を持ったもの

問４　７（行目）

問５　手を力強く握ったこと（10字）

問６　転＝14行目　結＝17行目

　　　理由＝（詩は智恵子の死を述べたもので）

　　　14行目から智恵子の死の瞬間が述べられている。

　　　17行目以降は死からある程度の時間の経過がある。

問７　技法＝隠喩　形容＝嵐のように激しい呼吸

問８　ウ・オ

問９　ア＝挽歌　イ＝象徴　ウ＝美化

■覚えておきたい語句

□5　香気が立つ……………よいにおいやかおりが生じる。

□11　瀬戸ぎわ（際）…………………勝敗・成否などのわかる、差し迫った場合。

★覚えておきたい比喩表現

□直喩（明喩）

　「たとえば・あたかも」（副詞）、「〜のように（な）・〜に似た・まるで〜」などの語により、たとえるものとたとえられるものとの関係をはっきり区別し、明示する。

□隠喩（暗喩）

　たとえるものとたとえられるものを直接結びつけ、両者がたとえの関係にあることをはっきり明示しない。「〜のような」「まるで〜」などの語を用いない。

〈作者＆出典〉高村光太郎（たかむら・こうたろう）一八八三年（明治16）〜一九五六年（昭和31）東京生まれ。詩人、彫刻家。一九一四年（大正３）第一詩集『道程』を出版。とならび、口語自由詩の完成に大きく貢献した。妻・智恵子との出会いから結婚、そして死別を歌った詩集『智恵子抄』は特に有名であり、多くの人々に愛された詩集でもある。ほかに詩集『典型』などがある。本詩は、『智恵子抄』を代表する。

【読みのセオリー】

★さまざまな技法

　・反復法（リフレイン）・韻律・倒置法・連用中止法・擬人法・擬態語……。

　それらの技法にこそ、詩の重要な意味が隠されている。

　どこに、どのような技法が使われているか、それをまず見つけること。

　次に、その技法を用いている効果を考える。

■読みのセオリー［実践］さまざまな技法

問７　「咽喉に嵐はあるが」は、咽喉のある状態を［１　　］にたとえたもの。

　このような、あるものを別のものにたとえる比喩を

［２　　　　　］という。

　　　↓↑

［３　　　　　］

（「ような」「ように」などの語を用いて示す。）

「嵐」＝雨や風が激しい天候

　　　↓

咽喉が嵐のような状態にある。

　　　↓

智恵子の［４　　　　　］が嵐のように激しくなっている。

〔解答〕　１嵐　２隠喩　３直喩　４呼吸

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問３　詩の中より、文語表現を一箇所抜き出せ。

　［答］　天のものなる

＊新問

問10　５行目「トパァズいろの香気」は特異な表現といえる。その理由を説明せよ。

　［答］　色でにおいを形容した表現だから。